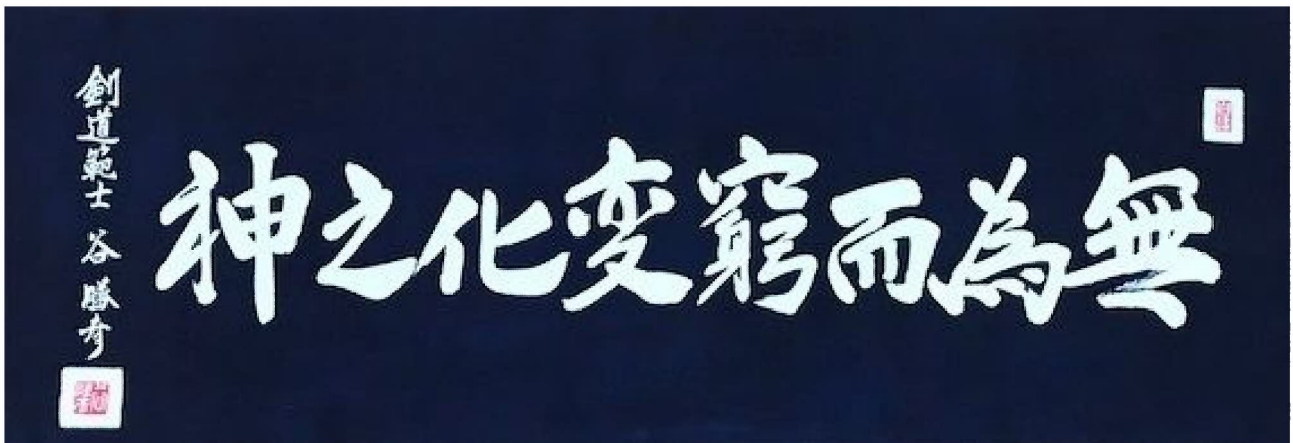
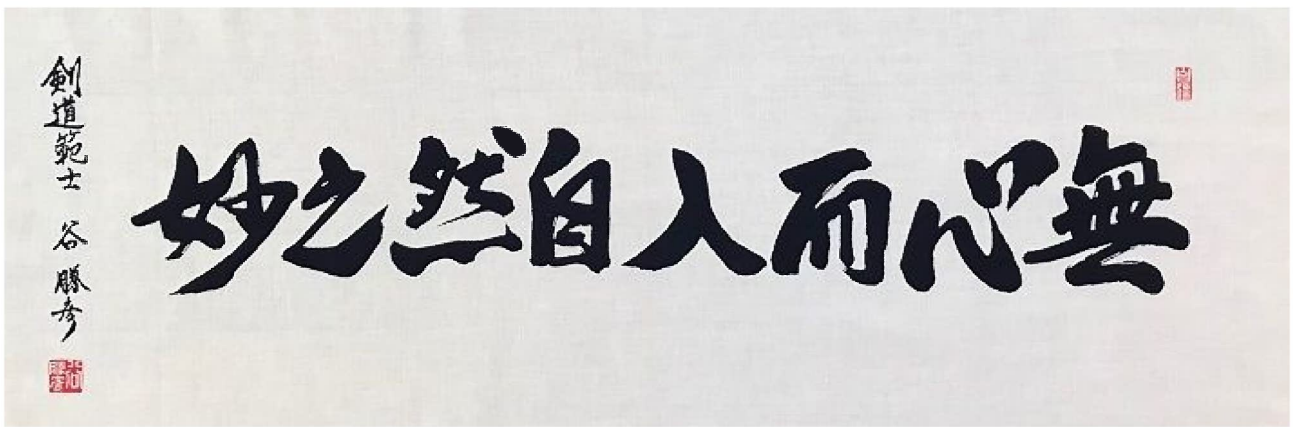


祝

谷勝彦先生 剣道範士
受称記念祝賀会



日時 平成30年9月9日(日) 午後5時 開宴
場所 ホテルグランビュール高崎
共催 群馬県剣道連盟 群馬県剣道連盟高崎支部



次 第

司会進行 倉本 忠

開 宴

主催者挨拶 群馬県剣道連盟 会長 武藤成孝

ご来賓祝辞 高崎市長 富岡賢治 様

高崎市スポーツ協会 会長 矢澤敏彦 様

花 束 及 び
記念品贈呈

謝 辞 谷 勝彦

乾 杯 群馬県剣道連盟高崎支部 支部長 清水強雄

祝 宴

～DVD上映～

群馬県剣道連盟 副会長兼理事長 小林一隆

閉 宴



経 歴

昭和 32 年 7 月 21 日高崎市生まれ(61 歳)。

小学校 2 年から、自宅と同町内にあった「東部通信道場」で剣道を始める。館長の故古関幸平範士(元県剣連会長)や故角田庚先生の他、橋本貞治先生(前高崎支部長)など、当時の東部通信工業の先生方に手ほどきを受ける。

新島学園中学校・同高校を経て、筑波大学に進学。大学では佐藤成明範士・故今井三郎範士らに師事する。

昭和 55 年 4 月、大学卒業後に郷里で高校教師となる。県スポーツ振興事業団 4 年、あかぎ国体後の昭和 59 年 4 月より県立高崎商業高校 10 年、県立吉井高校 11 年、県立前橋西高校 6 年の勤務を経て、県立前橋工業高校教頭 2 年、県立藤岡中央高校教頭 3 年の後、県立渋川工業高校校長 2 年を最後に、本年 3 月末をもって定年退職を迎える。

その間、元県剣連会長の故沖昌憲範士・故中島義孝範士にご指導を頂く一方、大阪体育大学・埼玉大学・順天堂大学などにおいても指導を頂く。

【主な競技歴】

- 全日本剣道選手権大会 5 回出場(ベスト 16・2 回)
- 全日本東西対抗剣道大会 10 回出場
- 全日本都道府県対抗剣道優勝大会多数回出場
- 国民体育大会多数回出場
- 全日本選抜剣道七段大会 4 回出場
- 全国道場連盟対抗大会出場(準優勝 1 回)
- 全国教職員大会多数回出場
(団体優勝 1 回・三位 2 回)
- フランス国際武道大会出場(団体優勝・個人三位)
- コンバットゲームズ・ロシア大会出場
(高段者個人戦準優勝)
- 全日本選抜剣道八段優勝大会 7 回出場
(優勝 1 回・準優勝 2 回)
- 1997 年よりイタリアでの指導は 15 回以上となる



作道正夫範士と谷勝彦範士
平成 30 年 8 月 14 日写

【称号・昇段】

平成 3 年 11 月 :7 段位取得(34 歳) 同 4 年 11 月:教士号取得(35 歳)
平成 16 年 11 月:8 段位取得(47 歳) 同 30 年 5 月:範士号受称(60 歳)

お礼の言葉

平成30年5月6日(日)、京都市で開催された称号審査会において、思いがけず「剣道範士」の称号を受称することとなりました。電話にて一報を頂いたときは半信半疑で、その後インターネットで全剣連の発表を確認し、「大変なことになった、どうしよう」と思ったのが正直な感想です。

今までの段位や称号審査は、自分自身が受審するという極めて主体的なものでしたが、今回は所属剣連からの推薦書の書類審査によるもので、今回の結果は全く予想していませんでした。

それから四ヶ月が過ぎ、本日ここに皆様にお集まり頂きましたことは、私にとってこの上ない喜びであり、皆様に心よりお礼を申し上げます。特に、今回の受称に際しての、県剣連の武藤成孝会長をはじめとした県剣連役員の皆様のご配慮と、祝賀会における県剣連高崎支部の清水強雄支部長を中心とした支部役員兼幹事の皆様のご多大なるご尽力・ご支援に対しまして、衷心より感謝申し上げます次第です。

これからは、今まで自分を育ててくれた郷里・群馬に対する感謝の気持ちを忘れず、また今までの間頂きました諸先生や皆様からの教えやご恩に報いるために、自己の剣道の在り方や剣道人としての生き方に対して決して慢心や妥協をすることなく、なお一層の努力・研鑽を重ね、斯道発展のため誠心誠意取り組んでいく所存であります。

皆様には、今後とも倍旧のご指導・ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げますと共に皆様の益々のご健勝・ご発展を心よりご祈念申し上げ、感謝とお礼に代えさせて頂きます。

本日は、誠に有難うございました。



「表紙の説明」

無心而入自然之妙 無為而窮變化之神

(無心にして自然の妙に入り 無為にして変化の神を究む)

明治27年、小石川下富坂町の講道館大道場開設に伴う落成式時の嘉納治五郎師範による演技「古式の形」を評した勝海舟の詩にある言葉。嘉納師範は「形は文法で、乱取りは作文である」とも語っている。